

現代語における非表出表現について

林 謙太郎

一、はじめに

現代語には、「私は物心ついたところから音楽の道を考えていました。」の傍線部に見られるような助詞「が」の非表出、「周囲に気を遣う気持ちもわかるけれど、まず自分を大事にすることがすべての土台。」では、助動詞「だ／です」の非表出、「御有志の皆様にお手伝いいただければ」と考えております。」では、例えば「ありがたい」という言葉の非表出、が想定できるような一連の言い方が存在する。

小稿では、この種の表現についての分析を試みる。

二、助詞の非表出

ここでは、助詞の非表出が想定できる例を挙げてゆく。なお、非表出想定箇所には、便宜的にゆを挿入することにする。以下同じ。

〈ガ「格助詞」〉

(1)「ある・ない」類

- ①縁があつて私も公演にかかわらせていただいた。
 - ②努力のかいがあつて生産量と販売額が順調に伸びている。
 - ③疲れ過ぎるほどの運動は害があつて得はないと思います。
 - ④小売業は、お客があつての業態だ。
 - ⑤細川政権があつての小泉政権と言えないだろうか。
- いずれも助詞を使わないことによつて、叙述の流れを遮断し、意味を卓立させている。

- ⑥説得力がある形で示さないと読者は納得しない。

- ⑦そういう視点から読むのも興があるものである。

このような「くある——」という装定用法は、被修飾語の内在している性質を修飾するという形容詞の修飾機能（堀一九四一、P八七）に相通ずる。多数ある用例の一端は次の通り。

意欲ある人・栄光ある祖国・限りある命・格式ある大社・価値ある一着・活気あるお弁当売場・活力ある人生・含蓄ある言葉・気品あるステンドグラス・希望ある分野・興味ある資料・財力ある者・情緒ある雰囲気・誠意ある回答・責任ある立場・節度ある行動・善意ある行為・体系ある行動・伝統ある老舗・特色ある点・熱意ある人材・栄えある栄冠・迫力ある色使い・風情ある老舗旅館・弊害ある習俗・変化ある形相・実りある学生生活・魅力ある大学・勇気ある行動・ゆとりある子育て・理解ある批評家・良識ある集団・歴史ある港町

- ⑧両件とも異議がなく了承された。

- ⑨二人は違和感がなく見事に演じている。

⑩ ビタミンCを損なうこともなく摂れます。

⑪ プリンスエドワード島の様子が、余すところもなく紹介されている。

⑫ 暮らしの中に国際性が無理もなく入り込んでいる。

⑬ 彼らの業務もなくして安全な生活は成り立たないだろう。

これらの「―なく」型は緊密度が高く、「が」の想定には少々無理がある。

⑭ 成人なら問題もない量でも、胎児や乳児の場合は……。

⑮ 彩り、量とも申し分もない。

⑯ 私には関係もない。

この場合は、装定用法と述定用法がある。

(2) 「数―」・「心―」類

① 数のあるうどん店の中から……。

② 日記文学は数が多い。

③ チャリティコンサートにも数の多く出演している。

ほかに、「数限りなく・数知れず・数少ない」等あるが、「が」の想定には無理がある。

④ 何かほのぼのと心の暖まる思いがしたのです。

⑤ 和洋のテイストを融合させた館内に心の休まります。

⑥ への米国の姿勢に対し、胡氏は心の穏やかではなかったと思われる。

この型も緊密度が高い。用例数も多く、中型以上の国語辞典で容易に見出すことができる。例えば、「心温かいもてなし

・心ある人・心騒ぐ季節・心和むひととき」等々。

(3)「よい・悪い」類

①蛇口をひねると水が勢いよく流れ出した。

②香りよく、ふつくと甘みのある新米。

③運よく抽選に当たった。

④根気よく歩きました。

⑤四季折々の素材をバランスよく料理にまとめる。

ほかに、「掛声」が威勢よく響き渡る・効率よくアピールする・手際よく並べる・仲よくなる」などが考えられるが、いずれも「が」の想定に無理がある。

⑥小気味よい会話・笑い

この「よい」型は、ほかに「心地よい風・程よい辛さ」などがあるが、いずれも「よく」型でも使え、「が」の想定には無理がある。

⑦運が悪く事故に遭った。

⑧生ごみは始末が悪いものです。

「悪い」類は、「よい」類に比べると、はるかに用例が少ない。

(4)「全」・「各」類

①全員が一致した考えで……。

②全室の個室で心ゆくまでくつろげます。

③各自の一定のハードルをクリアして入学した。

④お互いのスクラムを組み、実現に努力しましょう。

これらは、「が」の想定を拒まないのので、助詞の非表出は意味を卓立させる。

(5)「ーことー」類

①ヨーロッパでの選挙風景を見習ってほしいと考えることゆしばしばです。

②ショックを受けることゆ確実な一冊である。

③そんなことゆ自分にできるはずがない。

これらも助詞の非表出は意味を卓立させる。また、①の例のように、古めかしい表現である場合もある。

(6) 程度が大なることを表す言い方

①ここは海あり山あり、見所ゆいっぱいです。

②異国情緒ゆたつぷりの気分を味わう。

③ビタミンやミネラルなど、栄養ゆ豊富なのが特徴だ。

④四万十川に育まれた青さのりを風味ゆ豊かに煮詰めた佃煮。

⑤栄養ゆばっちり、よく太って大きいこと！

⑥ヤマトイモは栄養ゆ満点の食材です。

⑦梅の生産量ゆ日本一を誇る紀州、南部川村。

これらは、物事の多さを表している。

⑧ 生活に役立つサークルは人気の上々です。

⑨ 鹵ごたえの拔群の獲れたて伊勢海老。

⑩ 春の真つ盛りの南房総。

⑪ 意欲の満々の答えが返ってきた。

⑫ 価値の高い遺産

これらは、程度が高いことを表している。

⑬ 昔から恵みの多く、美しい川として有名です。

⑭ 若氣の至りと反省のしきりである。

これらは、古めかしい表現である。

(7) 同 格

① 私自身の監修者の一人でもあるので……。

「が」の非表出は意味を卓立させている。

(8) 古めかしい言い方

① せせらぎの響く溪谷を訪ねた。

② 二八人の省議メンバーのうち、六人が外部の方というのは、霞が関の広しといえど、あまりないと思います。

③ みつちり漢文学の素養を培い、それが後に文学者として花の開く礎となった。

こうした表現では、「が」の非表出は寧ろ当然である。

〈カラ「格助詞」〉

①イタリアの直輸入のオシャレな木製フレーム。

②人里の離れた池のほとりに小屋を建てて住んでいる。

この類は、用例に挙げたようなものに限定されるようである。

〈デ「格助詞」〉

①戦時下の言論の抑圧という風潮のもと、水面下で戦争批判を続けた作家達。

②プロペラの爆音が響くなかで説明される声にうなずきながらも、手はつかまるところを探していました。

動作の行われる舞台を限定する「で」が付かないと、そこにはうつすらと全体にわたる背景がイメージされる。こうした働きは、次のような名詞句でより一層、その一まとまり性を感じさせる。

③三個の六百円の洗剤を買った。

④全国の屈指の豪雪の街。

⑤樹上の完熟させたものを丁寧にもぎ取りました。

⑥桜の「色」となった境内。

⑦本当に生涯の忘れられない映画は、一人三本か四本ではないか。

△ト「格助詞」△

①より多くのお客様に気持ちよく御利用いただけるよう努力してまいりますので、御理解の御協力をお願いいたします。
この場合は、「挨拶表現」という特殊な文体で使われた例である。

△二「格助詞」△

①朝八時の、総勢八六名はバス二台に分乗し、箱根へと向かいました。
②結果に疑問な点がある人は、後日やり直しをすることがある。
③この日ゆ連れてきたチヨウゲンボウはショー用で人に馴れているタ力だ。
④溪谷は、この時期ゆ恋しくなる温泉に恵まれた土地ばかり。
⑤血液の循環がよくなるほかゆ、ストレスの解消にもつながります。
⑥多くの皆様が御参加くださいましたことゆ、心より御礼申し上げます。
これらの例は、「が」の場合と違って、「に」の非表出が意味の卓立につながらない。逆に意味を朦朧化させる。必要以上に事態を明確化させない工夫である。こうした動きは次のような句表現に生かされる。

⑦下町情緒ゆあふれる葛飾柴又。

⑧この胆力ゆすぐれた少年。

⑨本物ゆそつくりのケーキです。

⑩仕事ゆ熱心な人間。

⑪○○○伝説ゆゆかりの地。

⑫お口ゆいつばいの春の香りを召し上がれ。

⑬昭和三年の創業のレストラン。

①女性特有の悩み。

へ「格助詞」

(1)「全体↓部分」類

①黒磯駅近くの映画館。

②市内の中心部にある十日町郵便局。

③カーニバル会場の中央の巨大な雪像ステージ。

④これらは堂宇の奥深くに秘蔵されていた。

⑤江戸幕府の草創期の都市の様子。

①と④が空間、⑤が時間の例であるが、「の」を想定した場合に比べて、前要素部分が主となる意味合いが強い。

(2)「―全」類

①活動の全体の企画・運営。

②世界中の人々の皆に知られてしまう。

③能格構文を持つ言語のすべてに対して……。

これらは「の」の非表出が意味を卓立させている。

(3) 同 格

- ①この小冊子はふるさとの関西を考えるキャンペーンの一環としてまとめられたものである。
 - ②歴史ある港町の横浜。
 - ③清流の四万十川に育まれた青さのり。
 - ④ふきのとうやたらの芽などの、旬の野菜がおいしい季節になりました。
- これらのうち①③は、キャッチフレーズ的で「の」の想定は不自然となる。また、④の「など」も助詞を付けないことで意味を卓立させている。

(4) 再帰代名詞的語彙群

- ①会員の一人一人が参加できるもの。
 - ②会員の相互の親睦をはかる。
 - ③学生の各自が選定した作品。
 - ④経済と政治のそれぞれに問題を抱えている。
 - ⑤四季の折々の表情が眺められるお風呂。
 - ⑥素材の本来のおいしさ。
 - ⑦旧牛込門は、江戸時代のそのままの姿を保つ貴重なもの。
- これらは、前要素単独でも十分意味は表せるので、後要素は補助的に働いている。

(5) 見出し表現類

① P T A 活動お手伝い協力アンケート

② 産地直送朝獲れ天然地魚の豪快活造り

この類は、叙述を展開するわけではないので、名詞の羅列になる。これほどではないにせよ、「経済見通し・価格設定・市民手作り（の雪まつり）」等に見られるような、二つの名詞による複合語は非常に多い。

へ八「係助詞」

(1) 呈示用法

① 人生ゆ、何が起るかわからない。

② これゆ、お見舞です。

③ その数ゆすこぶる多く、ここにはただ目ぼしいものを例示するにとどめるほかはない。

④ 本校の発展向上のため、教職員一同ゆ一層の努力を続ける所存です。

⑤ 保護者の皆さまの御心配ゆいばかりかと、御推察申し上げます。

これらは、助詞を付けないことで意味を卓立させているのだが、③～⑤の例は文語的表現から来る要因も加わっている。

(2) 「―こと―」類

① この本を読めば、「食」の知識が一段も二段も高まることゆ必定である。

② 身も心もリラックス、明日への活力がわくことゆ間違いなし。

この場合も、意味の卓立と文語性が感じられる。

△「格助詞」△

(1) 呈示用法

- ① 二三部門の競技にわたって、酷暑の中、熱戦が繰り広げられた。
- ② 何かとお忙しい季節ではありますが、ひとときの雑事を忘れてコーラスを楽しんでみてはいかがでしょうか。
これも意味の卓立。

(2) 「胸」・「心」類

- ① 希望に満ちた門出に胸が膨らませている学生。
- ② 期待と不安に胸が躍らせながら、……。
- ③ 熱意ある話に心が打たれました。
- ④ 新しい百年の始まりに心が躍らせた二千年の元年があわただしく過ぎ去りました。
これらの例は、「が」の場合より緊密度は高くないが、「を」の非表出は意味を卓立させている。

(3) 「形式動詞」類

- ① 田舎町の学校に転任して来た美人教師が悪童相手に活躍する青春映画。
- ② 甚だ以て煙りたいのだが、仕方が無いから資料片手に入って行くと、

(毎日八二〇・一〇九朝)

(図書八二〇二)

これらの例は、村木(一九九一、P三〇六)から引いたもので、ほかに「しめきり前に」「関東地方中心に」「保険金めあ

てに」なども同様とし、また多く、新聞の見出しに見られるとして十例の用例を挙げている。「を」の脱落について材木（P三〇七）は次のように述べている。

名詞の格を明示する形式が脱落するのは、その名詞が文の中で独立に、ある特定の役割をはたすことを放棄しているとみなすことができるであろう。つまり、もはや句である必要がなく、別の句にくみこまれてその句を構成する要素になっているのである。

これを筆者なりに解釈すると、①の例で言えば、「悪童相手に」は「体当たりで」のような一つの句に置き換え可能で、収斂されて「活躍する」に係っていく、ということになるのか。

こうした機能は、次に述べる慣用句においてより顕著に見られるところである。

（4）慣用句

- ① 汗水あせゆたらして働く。
- ② ホツと息いきゆつくひとときに……。
- ③ お涙なみだゆ頂戴ていだいのドラマ仕立て。
- ④ 丹誠たんせいゆこめて育てあげたさくらそう。
- ⑤ ITはどこの吹く風か。時代遅れの年寄りになってしまいました。
- ⑥ なりふりゆ構かまわない大胆不敵な行為。
- ⑦ 旅人がひと息いきゆついた宿場町。
- ⑧ 一肌ひとかわゆ脱ぐ。一役ひとやくゆ買う。
- ⑨ 夢ゆめゆ見る力を育てる。

これらは慣用句であるので、当然のこと、「を」の想定は不自然となる。

三、断定（含丁寧）の助動詞の非表出

判断文の締括りを省略するこの表現にも、先の助動詞の非表出で見て来たような、意味の卓立と朦朧化の現象が見られるようである。以下に具体的に見てゆく。

〈アテンション機能〉

（１）プラスイメージ強調

- ① 港町の夜景を眺められるクルーズがおすめφ。
- ② 銀座の中心に近いお店なのに、四五〇〇円はお値打ちφ。
- ③ ……は伝統ある老舗なればこそφ。
- ④ 添加物を一切使わず、その日の朝に作ったものだけを販売するのがこの店のこだわりφ。
- ⑤ ……すれば、効果顕面φ。
- ⑥ ……が満足度・価格で人気の的φ。
- ⑦ ……は見所が多く、アクセスも抜群φ。
- ⑧ 特に七万本の花菖蒲は必見φ。
- ⑨ 八百本の染井吉野が咲き誇る湖北海津の風景は圧巻の一言φ。
- ⑩ 昨年十月に開店したばかりだが、五日前までに予約しておかないと席がないほどの盛況ぶりφ。

⑪自慢の露天風呂は魅力満点φ。

⑫ペンホルダー、カード入れが付いているので、小物の収納・整理も楽々φ。

意味の卓立を示すものの一つが、相手に情報を強調する場合で、これを「アテンション機能」と呼んでみた。ここでは、それを細分して「プラスイメージ強調」として例を挙げた。

(2) マニユアル的表現

①焼きたてのなすに、砂糖を加えた味噌をのせて、出来上がりφ。

②三ヶ月ほど熟成させれば完成φ。

③システム概要は次の通りφ。

ここでは、叙述の流れにアクセントを加える機能を果たしている。

(3) 付け足し情報

①時間内に釣り上げた魚は持ち帰りOKφ。

②くのうれしい特典付きφ。

③携帯電話でEメール利用も可φ。

④さらに入浴を併用すると効果大φ。

⑤くの時も、油断は禁物φ。

いずれも、終わりに付け加えるワンポイント情報を印象づけるための工夫が感じられる。

〈感動・強調表現〉

(1) 単独用法

- ① スポーツの秋、読書の秋もいいけれど、やっぱり食欲の秋が一番φ。
- ② パンチの穴がわずかにずれた結果、精算機は誤作動を起こし出す始末φ。
- ③ 今大会は、これまでに以上に金メダル有力選手が目白押しφ。
- ④ 長屋の壁はとても薄くて、隣のうちの住人の頭の中の声まで聞こえてきそうなくらいφ。
- ⑤ はつとするような盛り付けや食材の取り合わせの妙にはうなるばかりφ。
- ⑥ 華やかで、かつ繊細、複雑な絵柄はもう芸術品といってもいいほどφ。
- ⑦ 細部の資料をここまで丹念に調べ上げた力量は脱帽ものφ。
- ①〜③は「一番」などのようにそれ自体が感動・強調を表す自立語の例、④〜⑦は形式名詞や助詞、接尾語の例である。

(2) 複合用法

- ① 川のせせらぎに耳を傾けながら、温泉にゆつたりとつかるひとときは格別なものφ。
- ② お汁用のせんべいと肉、野菜を煮込んだせんべい汁。さすが南部せんべいの故郷φ。
- ③ やさしい風が心地よい秋は、乗馬を楽しむのに絶好の季節φ。
- ④ なんて巧みな配色φと感じ入った。
- ⑤ 暑さが日毎に増し、いよいよ本格的な夏の到来φ。
- ⑥ 成功できる人は、ほんの「握り」φ。

これらは、②の例でいえば、「さすが」と「故郷」の組み合わせによって初めて感動・強調を表すことが可能となったと

考えたので、「複合用法」とした。

〈婉曲な断定〉

- ①カリキュラムのまとめを急ピッチで進めており、二月中旬には完成する見込みみ。
 - ②えらい女の人に会ったというよりも、すごく魅力的な女性にお会いしたという感じじ。
 - ③不安と無縁の人間なんていないはずず。
 - ④主婦だった私の最終的な目標は、仕事を持つ人生じんせい。
- しつかりとした断定を躊躇するにはそれなりの理由がある。①は未来のこと、②③は自分の認識に対する謙虚さ、④は自分のことに対する謙虚さがその理由であろう。

四、サ変動詞の語幹用法

この問題については鈴木（一九七二、P一七七〜九）にまとまった考察があるので私に要約した形で紹介しよう。

（1）さまざまなテンス・アスペクトを示す。

「委員会で検討」は「検討している・検討することになっている・検討した・検討しよう」などを表現しうる。

（2）さまざまな主体的意味（陳述）を示す。

「起立」（命令）、「拙稿○○を参照」（願望）のほか、勧誘、疑問も。

（3）簡潔な表現であるため、新聞記事や履歴書・日記・スローガンなどで多用される。

（4）中止形も表現する。

……上高地を出発、奥又白に向ったが、……ザイルが切れ小坂氏は壁より落下、事件は徳沢小屋に下山した魚津氏によつて伝えられ……（井上靖『氷壁』）

以上、述べられたほかにどのような性質が見出せるだろうか。まず再三言及しているように、この場合も意味の卓立化という働きはあるであろう。次に、この種の語類がちょうど動詞と名詞の中間的存在であるということから来るものが考えられる。一言でいえば、動詞は描写で名詞は概念。名詞はその語自体に多くの意味合いを内包させることが可能だ。例えば、水泳の意味での「泳ぐ」の説明は一つにまとめることができるが、「泳ぎ」は「泳法・泳ぐ技術・泳いだ調子……」など、文脈によつて様々な意味を表し、単純ではない。こうした一面がサ変動詞語幹にも言えるのではなからうか。例を挙げて示そう。

①まず南紀の中心的な町、新宮市からスタートφ。

「コレカラ何ガ体験デキルカ楽シミダ」

②歴史・文化・文学・思想など多彩な科目で編成φ。

「コレヲ十分ニ勉強スレバ、相当深い知識ガ得ラレル」

③中坊氏は「社会派弁護士」として長く活躍φ。

「振返ツテミレバ、多クノ難事件ヲ手掛ケテキタコトガ思イ起コサレル」

例えば、「」内に示したようなことが言外に表現できるのではないかと思うのである。

五、形容詞・形容動詞の語幹用法

これについては、福島（一九六五、P二三七～五八）にまとまった考察がある。ここではそれらに補足する形で論を進め

てゆきたい。

(1) 語幹終止用法

福島は、形容詞については「おおさむ（寒）。ああいた（痛）。」の例を挙げて、形容動詞については、「おおしずか（静）。ああ愉快、愉快。」の例を挙げて、いずれも「感動の意味を含むことが多い。」と述べているが、形容詞と形容動詞とでは、若干異なる点がある。それは、形容詞の場合はほぼ完全に感動を表すのに対して、形容動詞の場合は、感動を表すか否かはその語自体が持っている意味に大きく関係することがあるという点である。それは第三節で触れたところと相通ずる点でもある。まず、感動・強調を表している例を示そう。

① キヤンドルとミルクフラワーの新しい組合せがお洒落φ。

② クレヨンハウスは今日も親子で大にぎわいφ。

③ 大人の街・赤坂で、少しでも贅沢なお昼を楽しみたいときに最適φ。

④ ボトルのデザインも個性的φ。

⑤ コーチ陣の年齢層はバラバラφ。

⑥ 程良い辛味がごはんにびつたりφ。

⑦ 入浴料も三百円前後とリーズナブルφ。

⑧ まあ、おいしそうφ。（助動詞）

⑨ 集魚灯に照らされた港はまるで不夜城のようφ。（助動詞）

このうち、⑧⑨は助動詞の例であるが、形容動詞型に活用するので、ここで扱った。次に挙げる婉曲的なものの例でも同様に扱った。

⑩ディープな話題は避けたほうが無難φ。

⑪五戸馬肉ひつつみ鍋ーカラーゲンたつぷりで美容にもよさそうφ。(助動詞)

⑫多くの参加者が、期待以上のレベルに満足できたようφ。(助動詞)

このなかの⑩の例は、占いの言葉であることも考え合わせると、「無難」という語とも相俟って一層婉曲な感じを与える。

(2) 語幹の副詞的用法

福島は、形容詞については、「近近・うすうす」など語幹の重なりや「はや出発した。」の例を挙げて副詞との類似性を指摘しているが、意味としては、前項と同様、感動・強調を表しているようである。また、形容動詞については特に一項を設けて考察しているが、そのなかで、「いろいろ」についての問題点を指摘しているので、それについて考えてみたい。

①いろいろやってみます。

この「いろいろ」の部分には、他に「いろいろと」「いろいろと」との置き換えが可能であるが、これら「三つの意味論的な分析」は「今後の問題」とされているからである。

まず、用例を示そう。

②日本語では漢字はいろいろに読まれています。(文化庁一九七一『外国人のための基本語用例辞典』)

③最近の子供達は学用品もいろいろと増えて、手提げの荷物を二個も持っているものも珍しくありません。

④六十才で定年退職して、遊んでいるのはもったいないと思い、再就職をいろいろと考えました。

「いろいろに」と「いろいろと」に共通しているのは、指示するもの(前提)がしっかりある(想定される)ことである。

違っている点は、「いろいろに」は指示するものは一つで、それを複数に解釈できることを示しているのに対して、「いろいろ

ろと」は指示するものは初めから複数あって、それらを単に引用しているに過ぎないという点である。「いろいろ」はその前提をことさら明確化しない状況で使われるといった印象を受ける。

それでは最後に、用例を追加してこの節を閉じることにする。

⑤正直^⑤の言つて、この事業を成功させるには莫大なエネルギーが必要とされる。

⑥みごと^⑥の合格した人、力が及ばなかった人、さまざまと思うが、まずは一年間の健闘をたたえたい。

⑦能楽も茶の湯と同様^⑦の、愛好された。

六、言いさし表現

ここでは今までとは違い、もう少し長い語句の非表出の場合を考えてみたい。表現効果については、今までと同様、意味の卓立と婉曲が見られるので、整理した形でまとめてみる。なお、非表出想定表現を「」で示すことにする。

〈感動・強調表現〉

(1)「おー」類

①銭湯のことなら、おまかせ^①ゆ！「クダサイ」

②彼女のステージをどうかお見逃^②しなくゆ。「才願イ致シマス」

(2)副詞

①このほかにも全国には、魅力的な夏列車がまだまだいっばい^①ゆ。「アルノデス」

②それが何とこちらの予定した宿泊料の三倍もの法外の値段でびっくりゆ！「シテシマイマシタ」

(3) 助詞・助動詞

①図書館の書棚を丹念に見ていきますと、こんな本がゆ「アルノカ」というような思わぬ本に出会う楽しみもあります。

②近い将来、サンマが高級魚に、「ナル」なんてこともあるかもゆ。「知レマセン」

③子供達にもお母さんのささやかな節水ぶりを身に付けさせ、ほんの一滴の水くらい「何トモナイダロウ」という気持ちを抱かないようにできるのでは「ナイカ」と思っています。

④この部屋の豪華さといったらゆ！「話ノホカダ」

⑤私もやがて年を重ねたときに、今は幸せだと言い切れるように努力しなくてはゆ「イケナイナア」と原点に立ち返った気持ちになったことでした。

⑥くの取材アポでは、日本語がうまく通じず四苦八苦。結局、お店に伺うことにゆ。「ナツテシマッタ」

⑦町には橋の欄干に伊万里焼の大壺が置かれたり、橋に陶板がうめ込まれていたり、焼き物の里らしい風情が至る所にゆ。
「見ラレルノデス」

⑧境内は木々の緑に包まれ、春の花見に、秋の紅葉にとゆ「出力ケル人達デ」年中人出が絶えません。

⑨この水不足を自分のことと受け止めない私達一人一人が、もっともっと水というものの有難さをかみしめ、大切に使わなければゆ「イケナイノダ」と思っています。

⑩散策途中には笠に、はっぴ姿で配達する郵便屋さんに出会えることもゆ。「アルカモ知レマセンヨ」

⑪話していただいた○○さん。多くの経験を活かして、さらなる御活躍をゆ！「才祈リシテイマス」

⑫まずは気軽に資料請求をゆ。「是非シテミテクダサイ」

⑬元凶の権力失墜の一日も早からんことをゆ。「祈ルノミ」
これらのうち、③の文中の「　　のでは「ナイカ」という言いさし表現は、次に述べる婉曲的表現に該当する。

〈婉曲的表現〉

(1) 助詞・助動詞

- ①「もう遅いから寝たらゆ」「イインジャナイ」と言われる。
 - ②もつと交流を図つてはゆ「ドウカ」と思います。
 - ③いつもと違うコーヒータイムを楽しんではゆ。「イカガデショウカ」
 - ④最近は若い入浴客も増えているとかゆ。「イウコトダ」
 - ⑤このまま進学していたら、音楽も勉強もどちらもおろそかになつていたのではゆ「ナイカ」と思います。
 - ⑥川音を聞きながら、自然いっぱいのなかで家族、あるいは友人と楽しむ食事もいいのではゆ。「ナイカト思イマス」
 - ⑦御有志の皆様にお手伝いただければゆ「アリガタイ」と考えております。
 - ⑧この喜びを一人でも多くの方と共有できればゆ「イイナ」と思っています。
- 以上の例からもわかるように、ほとんどが相手への婉曲な提案という文脈で使われている。違っているのは、情報確認の甘さを示す④の例や反実仮想の⑤の例である。

七、おわりに

誤解を与えてはいけないので、今一度確認するのであるが、これまで取り上げてきた表現は、本来使うべきところに使っ

ていないという「非用」（水谷一九九三）という誤用文ではないということ、そのまま十分自然な文であったわけである。それに取って補充するとすれば何が考えられるか、という視点で分析したわけであった。そこには、補充を許すものと全く許さないものが存在したのだった。

最後に、非表出表現の機能をまとめ、この稿を閉じることにする。

一、意味の卓立（感動・強調）

二、意味の朦朧化（婉曲）

三、一まとまり性（一語化・慣用句）

四、文語性

参考文献

- 鈴木丹士郎 一九七二「動詞の問題点」『品詞別日本文法講座3動詞』明治書院
福島 邦道 一九六五「語幹の用法の問題点」『口語文法講座2各論研究編』明治書院
文化 庁 一九七一『外国人のための基本語用例辞典』大蔵省印刷局
堀 重彰 一九四一『日本語の構造』畝傍書店（勉強社の複製本による）
水谷 信子 一九九三「『非用』と談話の展開」（『日本語学』一三四号）
村木新次郎 一九九一『日本語動詞の諸相』ひつじ書房